

経済活動の第一歩はおこづかい帳から

◆世の中のお金が

「見えなくなった」!?

キャッシュレス決済という言葉をよく聞くようになりました。お金の「見えない化」が進んだ今、「お金を使っている」「お金を使ったら、その分減る」という実感が希薄になってきたと感じる人が多いのではないのでしょうか。お金自体の流通のあり方が変化していく中で、特に子ども世代からお金の感覚を磨いていくことが求められます。

◆おこづかい帳をつけるメリット

子どもに毎月定額のおこづかいを渡す、用途に応じて必要額を渡すなど、家庭によってさまざまな考え方があります。では、おこづかい帳をつけるメリットは何でしょうか。

①計画的なお金の使い方が身に付く
ムダ使いや買い物の失敗と反省を重ねながら、管理する力が身に付きます。

②お金のムダ使いが減らせる

記録を見返すことで「必要なもの」と「欲しいもの」を区別する判断力が養えます。

③目標に向けてお金を積み立てることができる

お金をためる楽しさが分かり、大きな目標に向けての主体性と責任感が育ちます。

このように、おこづかい帳をつけてお金をやりくりすることは、自分の意思や心をコントロールすることにつながります。

◆自立心を育む

「おこづかいのススメ」

「おこづかいは家計の始まり」です。お金を「見える化」するために「おこづかい帳をつける」ことを通して、親子でコミュニケーションしてみませんか。買い物と一緒にいった際には、限られた予算内で最適なものを選択するという経済の基本が学べます。生産や流通といった背景を知ること、社会問題を考える視点へと広がります。生活に根ざしたお金の話を親から聞くことは、子どもたちにとって何よりの「生きる力」になるでしょう。

愛媛県金融広報アドバイザー
松本千晴